

## ニュース・イベント

### 持続可能な社会づくりを支える 国際影響評価学会 (IAIA) 一次期会長に選出されて一

原科 幸彦

#### 持続可能な社会づくり

国際影響評価学会と言っても、ほとんどの方は何のことか分からないでしょう。この学会は、環境アセスメント分野で最も権威のある国際学会です。

環境アセスメントは、持続可能な社会づくりのための基本的な手段で、人間活動を、環境を配慮したものにするための方法です。持続可能のためには人間活動による環境への負荷を減らすことが不可欠ですが、そのためには人間活動の管理という概念が必要になります。そのための重要な方法が環境アセスメントというわけです。

このため、現在では、経済先進国、途上国を問わず、世界の各国で環境アセスメントが行われています。その結果、国際影響評価学会には110以上もの国と地域からメンバーが参加しています。色々な国際学会がありますが、これだけ多数の国からのメンバーがいる国際学会はあまりありません。このことから、環境アセスメントが、今では世界中で普遍的なものとして行われていることがわかります。

なお、アセスメントとは行動を行う前に、その行動の結果をよく吟味して適切な意思決定を行うことです。したがって、アセスメントには、通常環境アセスメントだけでなく色々なものがあります。例えば、他には、ライフサイクルアセスメント、リスクアセスメント、社会影響評価、戦略的環境アセスメントなど多様です。これら全てが、アセスメントという概念に含まれます。アセスメントは、合理的で公正な意思決定を行うための方法です。

#### 国際影響評価学会 (IAIA)

この学会の名称は、International Association for Impact Assessment で、IAIA と略されます。これを直訳すると国際影響評価学会となります。その活動は広い意味でのアセスメントが対象ですが、やはりその中心は環境アセスメントです。それらの情報交流と研究の推進、実務の支援などです。この学会

は1980年にアメリカで設立され、30年近くの歴史があり、本部はアメリカにあります。

110カ国以上から、3000人以上のメンバーが参加しており、各国の政府機関や国際機関も深くコミットしています。アメリカの EPA (環境保護庁) やカナダの環境省、また、イギリスや、オランダ、ドイツなど EU 各国の環境省が関与しており、我が国の環境省ももちろん関与しています。また、国際機関では世界銀行なども深くコミットしています。毎年開かれる世界大会では、開会前に政府間パネルが開かれ、世界銀行も、World Bank Group Day を設けて一日かけて意見交換を行っています。そして、この学会は国連でも認められた NGO で、国際的な発言力も大きな組織です。

例えば、名古屋市藤前干潟保全の例があります。この干潟は市のごみの埋立て場となるところでしたが、アセスメントの結果、保全されました (写真)。このプロセスで IAIA のメンバーが共同声明を出し適切なアセスメントが行われるよう求め、これが環境庁の背中を押し、1999年に干潟の保全が決まりました。

このように世界の環境保全のために大きな影響力をもつ国際的な組織ですので、環境アセスメントの遅れている日本からの貢献は、これまでは残念ながら、それほど大きくはありませんでした。日本は1997年6月に環境影響評価法を制定しましたが、この環境アセスメントの法制化は先進国の中でもっとも遅い国となってしまいました。OECD (経済協力開発機構) の加盟29カ国中、日本の法制化は29番目、何と最後でした。このため、日本は環境政策が遅れていると見られてきました。当時は、日本から会長が出るとはとても考えられない状況でした。

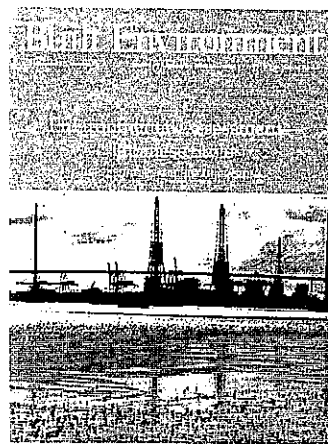


写真 Built Environment (2001年)の表紙を飾った藤前干潟日本の環境アセスメントの特集号が組まれた